

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071900866		
法人名	有限会社エイエスサービス		
事業所名	グループホームサンホーム		
所在地	福岡県田川市大字川宮1711-29		
自己評価作成日	平成25年11月12日	評価結果確定日	平成25年12月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成25年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者にはできるだけ集団でのルールをつくらないようにし、できる限り個人の生活を大切にしている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に「人生は人として生きること、その人らしく生きること」を掲げ、この時を楽しく生活してもらえるように、ルールを作らず入居者一人ひとりのペースを大切にしていた支援が実践されている。家族の「利用者と職員のやり取りを聞いていると、信頼関係が伝わる」とか、「次は私が入居させてもらうから」との話や、「人間としての最後を迎えられた」と家族から感謝されるなど、ホームや職員への信頼は厚い。昨今、施設や医療機関等に入所や入院中の家族からの相談が多く、その都度地域包括支援センター等関係機関と連携しながら対応しているが、今後は公民館活動等で地域交流を促進しながら、認知症や認知症ケアの情報発信が期待できるホームである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット
/事業
所所名

1号館/サンホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所としての理念はすべての職員で共有している	理念に「人生は人として生きること、その人らしく生きること」を掲げ、この時を楽しく生活してもらえるように、ルールを作らず入居者一人ひとりのペースを大切に支援している。仕事の休み時間に、家族が入居者の部屋で一服し、入居者が出かけていくのを見送る日常の姿がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の住民とは交流があるが公民館区域の交流がほとんどない	隣組が3軒の丘の上のホームであるが、地域の清掃など職員が率先して実施している。近隣の市町村事業所からの見学や、介護教室、職員研修等の講師依頼がある。今後は、地域を広くとらえて公民館活動等に参画していきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状地域の人々に向けては活かしていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録をホーム内に開示しサービス向上に活かしている	2カ月毎の会議には、家族代表、地域包括支援センター職員の参加があり、ホーム運営の問題点などを話し合い、サービス改善に繋げている。今年度は、ピザ窯の完成披露で利用者と委員でピザを一緒に食べる機会を作った。	運営推薦会議の議題にに合わせて、参加メンバーを地区民生委員や地域の代表の参加を図り、地域の支援を広げる機会を増やしていきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター・市役所との連携を取り橋梁関係を築いている	介護保険施設や医療機関等に入所や入院中の家族からの相談が多く、その都度市役所、地域包括支援センター等関係機関と連携を取っている。職員は近隣市町村事業所の研修会にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年1回必ず身体拘束についての議題でミーティングを開催しており、マニュアルも作り職員はいつも観覧できるようにしている	外出傾向を問題行動としてではなく、本人の想いとして受け止め、職員が同行したり、ミーティングで話し合いをしている。家族から、「利用者と職員のやり取りを聞いていると、信頼関係が伝わる」とか、「次は私が入居させてもらうから」との話もあり、ホームや職員への信頼は厚い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年1回必ず虐待防止についての議題でミーティングを開催しておりマニュアルも作り職員はいつも観覧できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回はミーティングの議題とし管理者・職員は少しずつではあるが理解を深めている	重要事項説明書に「成年後見人制度について」が明記され、利用開始時に説明をしている。毎月のミーティングでも話題にし、制度の理解に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては契約前から内容の説明・確認を行い十分に説明しているため入居後にトラブルこともない		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族は意見や要望を管理者や職員に気軽に話している	仕事の合間に来所されるなど、家族の来所が多く、日頃の会話から要望を聞き取っている。クリスマス会後に認知症の理解を深める話をしてから、家族同士の懇談会をしている。家族同士で電話やメール交換などの交流がある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングでいつでも意見や提案を気軽にできるようにしている	代表者は、給料日にユニット毎のミーティングで職員と話し合う機会を設け、「利用者にとって良いと思うことを実行しなさい」との方針を伝えている。重度者が増え体重測定が困難との職員の意見で、近日中に車椅子用体重測定器が購入される予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の状況を把握できているために退職者も少なく向上心を持って働いている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用条件はあるが性別・年齢等は採用対象にはしていない	資格やキャリアではなく、優しい人を採用している。ホームで経験を積みながら、介護福祉士資格を取得した職員も多い。開設当初からの職員や、職能訓練制度利用後に入職したパート職員もあり、離職者は無い。資格取得のための勤務体制を考慮したり、取得後は資格手当をつける等の配慮がある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に1回は人権学習を行い理解を深めるようにしている	毎月のミーティングの中で人権研修を行っている。市役所から配布された人権パンフレットは、ミーティングで紹介し、高齢者虐待防止に関するマニュアルを整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修の機会は設けており、法人内では必要に応じて行っている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	特に行っていないが機会があれば実施していきたい		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前から本人が困っていることや不安に思っていることを聞きできるだけ解消できるように取り組み安心して暮らしてもらっている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時の不安や要望を開始前に聞きサービス開始時には、事業所と家族で協力し関係を深めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に十分話し合いサービスを開始している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を基本とし今までの生活を生かし本人の意思を尊重し状態に合わせて今必要な介助に絞り、さりげない援助に努めている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には職員は共有した情報を報告している。安心感のある関係を築けるよう心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人ご家族からの要望で前もって日程を打ち合わせしての送迎等はもちろんの事、突発的な本人の要望にも極力対応し必要な時は共同ユニットの応援のもと努力している	介護度が重い入居者が多く、自ら外出する頻度は少なくなったが、以前の住まいの近所だった方の訪問があったり、友人宅への訪問も支援している。馴染みの理・美容院の利用も支援している。ペットのインコの持ち込みを認め、世話をされる入居者もいた。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者間は観察側から必要なら間にはいりませ、極力全員参加のレクリエーション等で関わりを支えている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	あくまでサービスの立場から今までどうり接するのはもちろん繊細かつ丁寧なフォロー、相談、支援を実践している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	受容共感を大切に、いつでも訴えに耳を傾け必要なら個別に時間をとり話を聞き、それを職員間で共有・検討し幅広く支援している	職員は担当制で、より細かく入居者の状況を把握するように努めている。2～3日前に行く先を決め外出することもあるが、本人の意向を確かめ無理には誘わないようにしている。夜間、寂しくて眠れない入居者のベットを居間に移し、共に過ごすなど入居者に寄り添った支援をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネを中心に入居時にご家族と本人のアセスメント等により得た情報をファイルし職員も共有している、また日々の生活の中でのコミュニケーションでも蜜に把握している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個別のペースに合わせてバイタルチェックで心身に変動あれば必要な観察と介護をし段階に応じ看護・医師と連携し支持を仰ぎ対応している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態や病状の変化があれば職員とケアマネはすぐに意見・情報交換を行える環境にあり家族の意向も随時担当者が伺いケアマネに報告している	鍼灸マッサージ師の資格を持つケアマネジャーは、マッサージをしながら入居者の意向を把握し、職員からの情報を集約して介護計画を作成している。今年度は、管理者が記録の合理化に取り組み、記録ソフトを作成して、職員全員がパソコン入力出来るよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいたこと個別に記録し職員間で情報の共有しながら実践している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態に応じホームで可能な限りの支援を提供し臨機応変な対応ができるように努めている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して包括支援センター職員の方から地域情報があれば随時提供していただき活用している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も以前からのかかりつけ病院を利用すると共に必要に応じ専門医を受診し支援している	かかりつけ医への受診を支援したり、訪問診療、訪問看護による健康管理も支援している。入院となった入居者を毎日職員が見舞い、環境の変化の軽減に努め、適切な医療を受けられるように支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回ホームと連携している訪問看護サービスを利用しており看護師からの指示・指導を受けている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は必要に応じ面会し担当ソーシャルワーカーとも情報交換しており家族・病院・ホームとがいつでも話せるよう努めている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの対象者については家族・協力病院とで連携し状態に応じた対応・準備をし支援に取り組んでいる	「入所者が重度化した場合における対応に関わる指針」を作成している。24時間対応の訪問診療と訪問看護と連携し、終末期を家族の泊りや、夜間を職員2人体制等で対応している。日頃から終末期のあり方を話題にして、家族での話し合いも勧めている。看取りまでの2ヶ月間、入居者はほっとした様子で穏やかに過ごされ、家族に感謝されている。	
36					

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルを作っている、急変時でも職員連絡表を使用し昼夜共に対応できる体制である		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回災害訓練、年に2回火災訓練を行い職員緊急連絡網を作りマニュアルと一緒に用意してある。備蓄品もあり	年2回避難訓練を実施している。1回は消防署の立会があり、指導を受けている。夜間想定は連絡網の確認をしている。別棟に備蓄している非常食は、日を決めて昼食で食べて管理をしている。5月の訓練では、避難した場所で非常食を食べている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常日頃から声かけ等には気おつけており必要に応じて職員間でも注意し合える環境にある	認知症である入居者の意向のまま支援することが、本人にとって良いことなのか、職員と家族で話し合う機会を持ち、入居者にとって良い方向へと支援できるように模索している。職員によるトイレ誘導の声かけや身づくり、後始末はさりげなく静かに行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何がしたいかを常に聞き取りながら希望にそったサービスを提供している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームには日課表や細かなスケジュールは無く利用者に合わせた時間で介護支援を行っている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が気に入らなければ衣服を替えファッションに関心をもたせるような努力をしている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合った食材を使用し、可能な限り利用者にも簡単な調理準備を手伝ってもらっている。日頃から食べたいものを聞き取りメニューとしている	食事量の少ない高齢者には、質の良い食材を提供しようとの代表者の考えがあり、一年分のお米の栽培を依頼して、精米をその都度するなど工夫している。入居者の食べたい献立を聞き、職員が交代で、1日1500KCalを目安に調理している。きざみ食の場合は、まず刻む前の食事を見せ、「小さくしてから食べましょう」と声かけをし、こぼす量を見越した食事の提供などの心配りが見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量・水分量は常に記録しており24時間を通して必要な量が取れるように支援している、また必要に応じ主治医とも連携している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア時に毎回付き添い磨き残しなどを補助的に磨き直している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄時間の記録を付けており一人一人に合わせた声かけや誘導を行い必要な介助支援を行っている	個々の排泄パターンを考慮した定期的な排尿支援で、カテーテルの留置が必要でなくなった入居者もいる。また、つかまり立ちが10秒できればトイレを利用できることを意識した支援をしている。トイレ誘導の声かけや、排泄後の身づくろいや後始末の確認をさりげなく行い、トイレでの排泄を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取はもちろん軽い運動など日頃から行っているが必要な場合は主治医の指示を頂き対応している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	日頃から入浴日などの決まりはなく、いつでも何時からでも入浴できる体制である	毎日午前も午後も入浴出来る準備をしているため、声かけの機会も多く、入浴の回数は多い。職員の2人体制での入浴支援も多くなっている。浴室は明るく、脱衣室も広く清潔感がある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に軽作業等を行い適度な疲労感を感じてもらえるよう支援している、また消灯時間に決まりはなく本人に合わせて支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルを作り、薬の説明等をファイル管理している、本人に変わりがあれば、すぐに主治医に相談し薬の変更等行える体制をとっている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テレビや外出は随時行い、軽作業等できることはしてもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日程を決めて外出をしているほか本人の要望があれば随時外出支援を行っている	年間の行事計画で、お花見やドライブをしている。要望があれば、自宅を見に行ったり、行きつけの美容院へ行ったりと外出を支援している。また、病院での待ち時間でお茶を飲んだり、帰りに買い物を一緒にするなど、外出時間の活用が喜ばれている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる方は持っていたき、出来ない方についてはホームで管理している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話したい時はいつでもできる環境である		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はもちろん共同スペースやトイレなど清掃の徹底に務めている、また季節に応じた環境作りにも配慮(空調・湿度等)している	ユニットの玄関から玄関へ屋根つきの通路が設置され、行き来が容易にできる。全館バリアフリー仕様で、廊下は滑り止めの消臭マットが敷かれている。明るく広いリビングは食事テーブルと、寛ぎの場所が分かれており、入居者がお気に入りのソファや椅子で寛いでいる。加湿器や空気清浄機が置かれ、ゆったりとした雰囲気である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースには趣味嗜好に合った物(カラオケ・映画鑑賞・手芸)がいつでも楽しめるようにしており、時間に関わらず過ごせる場所である		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個人が好きなように家具を設置してもらい一番過ごしやすいような環境作りを行っている	居室の引き戸はネームプレートが掛けられている。入居者のADLに合わせてベットやマットレスを使用している。テレビや椅子を置いた居室で、食事後は好きなテレビ番組やビデオ鑑賞して過ごす入居者もあり、自由な居心地の良い生活が送られている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は完全バリアフリーになっており必要ヶ所には手すりを設置してある。また危険ヶ所があれば随時対策している		